



日本戦略研究フォーラム

Japan Forum for Strategic Studies

ISがジハーディ・ジョンの死亡を“今、発表した狙い”はテロの予告か

政策提言委員、軍事・情報戦略研究所長 西村金一



はじめに

英BBC放送によると、イスラム教スンニ派過激組織ISは、1月19日に英文機関誌「ダビク」で、後藤健二さんらを殺害した通称ジハーディ・ジョン（正体はモハメド・エムワジという名の英国人）と呼ばれた覆面姿の男の死亡を確認したと発表した。機関誌には「彼を乗せた車が無人機の攻撃で破壊され、即死した」と書かれており、ISは、彼が有志連合に殺害されたことを認めた。

人質となった外国人を殺害する映像に度々出てきたジハーディ・ジョンは、ISの中で、恐らく処刑を実行する役割を持つ外国人戦闘員である。残忍なテロリストであり、広告塔でもあった。

アメリカ軍報道官は「昨年11月12日、ジハーディ・ジョンがラッカ市内のISの裁判所前で車両に乗り込んだのを確認、無人機で車両を追跡。無人攻撃機から対戦車ミサイル2発を車両に向けて発射し命中させ、同乗していた全員を殺害した。このことは、IS中枢への打撃となるだろう」と述べていた。

公開するまで約2カ月という期間が経過した。その理由としては、ジハーディ・ジョンは広告塔でありテレビに出るので、代わりの者が出てくれば「やはり殺害された」のだと気付かれてしまう。だからISは今後どうするかを検討と、彼に似せた交代者を準備するのに時間がかかったのであろう。



